

デブレツェン

DEBRECEN

デブレツェンの基本データ・町の名前の由来

人口：206,225 人（2009 年 1 月 1 日）

面積：461.65 k m²（2009 年 1 月 1 日）

人口密度：455.38 人/k m²（2009 年 1 月 1 日）

県：ハイドゥー・ビハール県

郵便番号：4000-4044

座標 ・ 47°31'48"N, 21°38'21"E



デブレツェンはハンガリーの東部にあるハイドゥー・ビハール県の町である。デブレツェンはハンガリーの都市の中で 2 番目に大きい都市である。ブダペストから電車でだいたい 3 時間、車で 2 時間半かかる。



町の名前の由来

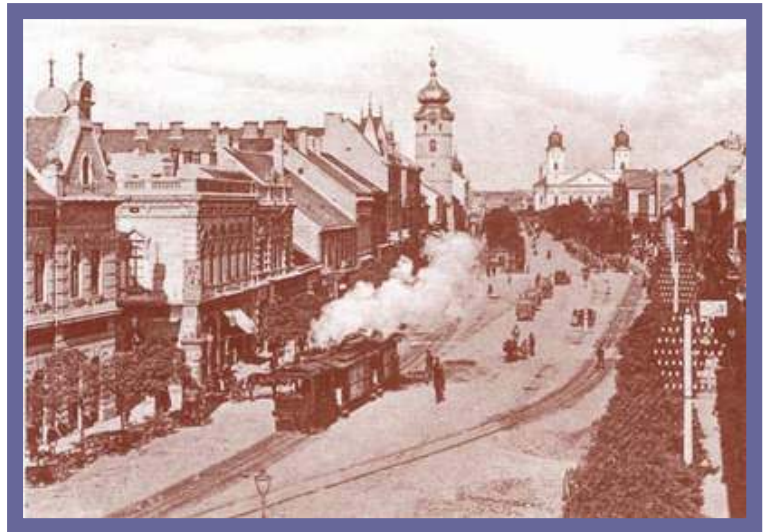
デブレツェンは昔デブレズンと言いました。この名前は 1235 年にはもう記録されています。この名前はトルコ語から伝わったもののようです。「Débrésün」はトルコ語で「生きる」「動く」という意味になります。

デブレツェンの歴史

デブレツェンでは、古代から人が住んでいた。町についての最も古い記録は、1235 年に書かれた *Váradi Regestrum* という本である。13 世紀から発展しはじめ、1361 年には市の立つ町になった。デブレツェンはトルコの主権下におかれたときも、どんどん広がり発達した。デブレツェンの歴史は16世紀の宗教改革と深く結びついており、宗教改革後、新しいカルバン宗教の中心になった。それでデブレツェンは「カルビン派のローマ」とも呼ばれていた。

（現在でもそのように呼ばれている。）その後、1849 年にはハンガリーの首都になり、そして 1849 年の革命では

Kossuth というハンガリーの有名な改革家がデブレツェンで「ハンガリーは独立した」と宣言した。第一次世界大戦によりハンガリーはトランシルバニアを失ったので、デブレツェンは国境に近く町となった。この時より、財政危機から抜け出すためにも観光が一番大事な産業となった。第二次世界大戦ではハンガリーは敗れてしまったが、その後 1945 年にデブレツェンは再度首都となった。現在デブレツェンはハンガリーで二番目に大きな町であり、文化と貿易の重要スポットとなっている。



デブレツェンで生まれた有名な人物

Csokonai Vitéz Mihály（チョコナイ・ヴィテーズ・ミハーイ）－ 彼は1773年にデブレツェンで生まれた詩人である。彼は先生たちに「学究的な人」と思っていた。どの学校でもハンガリー文学の中でチョコナイについて勉強する。デブレツェンにもチョコナイ・ヴィテーズ・ミハーイから名前をとった学校があるし、そして市庁舎の前にはチョコナイの銅像がたっている。



Szabó Magda (サボー・マグダ) — 彼女はハンガリーでたぶん一番知られている女流作家である。彼女もデブレツェンに生まれた。彼女は改革派の女子高に通った。サボー・マグダは調査をする時にいつも「デブレツェンにいたことはとてもいい思い出です」と言っていたそうだ。鹿と言う本は日本語にも翻訳された。



Tankcsapda (タンクチャプダ) — このグループはデブレツェンで誕生した、ハンガリーで一番有名なロックバンドである。

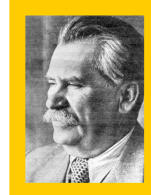


http://www.youtube.com/watch?v=0G3OnxmiPUg&feature=Playlist&p=F47B552D5681E9C8&playnext=1&playnext_from=PL&index=1

このリンクをクリックすると、タンクチャプダの一番有名な歌のビデオを見ることができる。

デブレツェンでは文学の才能がある人や文学者がたくさん住んでいた。ハンガリーの古典文学の世界で有名な人たちはこの町は好きだった。たとえば Mórícz Zsigmond (モーリツ・ジグモンド) , Tóth Árpád (トート・アルパード) , Ady Endre (アディ・エンドレ) , Krúdy Gyula (クルーディ・ジュラ) , Szabó Lőrinc (サボー・ローリンツ) , Arany János (アラニユ・ヤーノシュ) , Petőfi Sándor (ペテーフィ・シャーンドル) 等はデブレツェンに住んだことがある。

Mórícz Zsigmond (モーリツ・ジグモンド) : 作家、ジャーナリスト、編集者。浮世草子の文学の主要だった。



Tóth Árpád (トート・アルパード) : 詩人、翻訳者。彼は日本の文化もよく知っていた。



Ady Endre (アディ・エンドレ) : 20世紀を代表する詩人だった。ハンガリーの政治のジャーナリズムでも有名である。日本の wikipedia にも紹介されている。新詩集と言う書編は日本でも売っている。



Petőfi Sándor (ペテーフィ・シャーンドル) : ハンガリーの詩人。1848年の革命の重要人物。彼はハンガリー国家の歌を書いた。

ハンガリー人の神に / 我らは誓う、 / 我らは誓う、我らはもはや / 奴隷ではない！ーこれは国歌のレフレインだ。



デブレツェンの名所1 ― 大人の観光名所

Csonka Templom (チョンカ・テンプロム) – 改革派協会

Piac通りに改革派協会がある。18世紀までは木でできていたが1719年にあった火事のあと再建築された。面白いことはこの協会の上に伝統的な三角錐な形の屋根がないことである。このため「屋根がない教会」と呼ばれている。実は昔は屋根があったのだが、嵐で壊れてしまった。その後、一度直したがまた強い風で屋根が落ちてしまった。人々は「これは神様の意志」と判断し屋根がない形に落ち着いた。



Nagyerdő (ナジェルドー) – 大きな公園

路面電車に乗ったら、ナジェルドと言う停留所で降りるのが一番いいと思う。緑が多くて、空気がいいので散歩が楽しい。真ん中にベーカーシュトーと言う湖がある。ベーカーシュトーというのはハンガリー語で「蛙がいる湖」である。18世紀にデブレツェンは文化の中心的都市であり、この湖のまわりはデブレツェンで勉強する学生たちの大事な憩いの場であった。チョコナイという有名な詩人がそこで学生たちに教えたり、詩をたくさん書いたりした。最近は、夏の終わりごろにワインとジャズのフェスティバルが行われている。



Kölcsey Központ （コルチェイ・コズポント）－ キョルチェイコンベンションセンター

このビルを建てる前にあった建物もキョルチェイと言うコミュニティーセンターだったが、4年前新しくなった。今はデブレツェンで一番大きい文化センターになり、会議や文化的イベントや展覧会やコンサートなどが行われている。コルチェイコンベンションセンターのとなりにはモデムと言う美術館もあり、有名な近代展覧会を見ることができる。たとえば去年ここでレオナルド・ダ・ヴィンチの展覧会があった。この時ハンガリーに観光に来た日本人もこの展覧会を見に来た。



コルチェイコンベンションセンターのホームページ：
<http://www.kolcseykozpont.hu/index.php?lang=eng>

デブレツェンの名所2 – 子供の遊び所

Aquaticum (アクヴァティクム) – プレジャープール

プレジャープールは2003年にオープンした遊び場所である。娯楽風呂は屋内にあるので1年ずっと開いている。このビルのとなりに戸外プールもあり、夏の時に自然に囲まれた中で泳ぐのは更に気持ちが良い。プレジャープールの中はいつも夏であり、そして12のスライダーとマッサージプールもある。椰子がいっぱいあるので地中海の雰囲気があり、トロピカルな感じがする。外の温熱性（テルマールプール）は体に良いし寒い時でも気持ちよいので大人の方にお勧め。



娯楽風呂のホームページ：<http://www.aquaticum.hu/>

Nagyerdő állatkert (ナジェルドイ・アーツラトケルト) – 動物園

50年前立てられた動物園はデブレツェンの大きな公園（ナジェルド）の中にある。17万m²の広さの中にいろいろな大陸の動物種が住んでいる。冬期は午前9時から午後4時までで、夏時は午前9時から午後6時まで開いている。入場料は大人が500円ぐらい、子供が350円ぐらいである。そして入り口で動物の食べ物を買うこともできる。好きになった動物の養子縁組もできる。この場合、もちろん動物は動物園にいるが、養父・養母が毎月いくらかの資金援助を行う。



Vidámpark (ヴィダームパーク) – 遊園地

これはハンガリー東部で一番大きな遊園地で、15の遊戯施設がある。たとえば仙郷や、小さなローラーコースター、回転木馬や、子供の電車、そして観覧車などで遊ぶことができる。冬期は午前9時から午後4時まで、夏時は午前9時から午後6時まで開いている。入場料は100円である、そして遊具に乗るときに更に料金がかかる。それはだいたい100円から250円程度。遊園地と動物園は近くあるからこの二つは一日で訪れたほうがいいと思う。



デブレツェンのホテル

1 .Hotel Lycium (****) – ホテル・リーティーウミ

クルチェイコンベンションセンターのとなり、デブレチェンの都心にある、ウェルネスホテルである。

住所：テ-4026 Debrecen, Hunyadi u. 1-3.

お1人さま料金：11.500円から 16.400円まで

お2人さま料金：14.000円から 18.400円まで



ホームページ : http://www.hotellycium.hu/?page=statikus&statikus_id=2&ln=en

2.Cívis Grand Hotel Aranybika (***) — ホテル・アラニュ・ビカ

1915年に立てられたホテルは歩行者天国にあるとても静かなホテルである。建物は古くて外も中も静寂な感じがする。

住所 : テ 4025 Debrecen, Piac u. 11-15.

お1人さま料金 : 7. 200円から 12. 700円まで

お2人さま料金 : 8. 700円から 14. 200円まで



ホームページ : <http://civishotels.hu/en/szalloda-szallodaleiras/1/2/civis-grand-hotel-aranybika-debrecen/>

3.Centrum Panzió — セントロム・パンシオ

小さくて居心地のよいペンションである。部屋のスタイルは独特なもので、バロック時代に戻ったような気になる。

住所：〒4026 Debrecen, Péterfia u. 37/A

お1人さま料金：3,900円から 4,900円まで

お2人さま料金：4,900円から 6,400円まで



ホームページ：<http://www.panziocentrum.hu/centrumeng.html>

4. Balassi Intézet Márton Áron Szakkollégium — マルトン・アーロン・コッレギウム

マルトン・アーロン・コッレギウムはユースホステルである。1つの部屋にベッドが2～3あり、安い。

住所：〒4027 Debrecen, Egyetem sugárút 13.

お1人さま料金：800円から 1,700円まで



ホームページ：

http://www.szallasjegyzek.hu/ifyusagi_szallas/debrecen/balassi_intezet_marton_aron_szakkollegium_debrecen.php

<http://www.martonaron.hu/index.php?dat=198>

(最後のページの地図を参照)

デブレツェンのレストラン

Calico Jack Pub — カリコジェックパブ

このレストランは海賊船の形となっている。とてもおいしくて色々な料理を供している。鶏肉、七面鳥、牛肉、豚肉、菜食主ベジタリアンフードや魚肉もあるが、一番おいしいのは2名様用の肉料理盛り合わせである。これは大きいなお皿に色々な肉とご飯、ポテトとかあって、違う食べ物ちょっとずつ食べることができる。

営業時間：

月曜日から金曜日まで：8：00～01：00

土曜日：10：00～02：00

日曜日：10：00～24：00

住所：Debrecen, Bem tér 15.



ホームページ：

www.calicojackpub.hu —

「Fotók」というばしょをクリックするとレストランの中の写真を見ることができる。
「Térkép」というばしょをクリックするとレストランへのアクセスがわかる。

「Étlap」というばしょをクリックするとレストランのメニューがハンガリー語と英語で読める。

Gilbert Pizzéria — ジルベルトピッツェーリア

このレストランはおもにピザ売ってるところだが、スパゲティとかスープ、サラダとデザートもある。ピザを好きな人たちにはお勧め！48種類のピザは安い。（値段は400円から900円まで）。

営業時間：

月曜日から土曜日まで：10：00～21：30

日曜日：10：00～20：30

住所：

Debrecen, Kálvin tér 5.



ホームページ：

<http://www.gilbert.hu/>

このホームページで食べ物の写真を見ることができる。

「leves」というばしょをクリックするとスープの写真がでる。

「pizza」というばしょをクリックするとピザの写真がでる。

「spagetti」というばしょをクリックするとスパゲティの写真がでる。

「penne」というばしょをクリックするとペンネの写真がでる。ペンネはスパゲティみたいな食べ物である。

「saláta」というばしょをクリックするとサラダの写真がでる。

Wasabi — わさび

ハンガリー料理が好きになれない方、あるいは久しぶりに和食を食べたい方は日本のすし屋に行もある。まきずし、にぎりずし、さしみ、ぐんかんまき、そしてキムチもあって、日本のすし屋とだいたい同じものが食べられる。

予算：

週日 — 昼食（11：00～17：00）：2000 円ぐらい／人

夕食（17：00～23：00）：2500 円ぐらい／人

週末と休日 — 2500 円／人／一日

3 歳以下の子供は無料

3 歳から 12 歳までは 40 % 割引

営業時間：

毎日：11：00～23：00

住所：

Debrecen, Piac u. 18.



ホームページ：

<http://www.wasabi.hu/>

(最後のページの地図を参照)

デブレツェンの歩き方

デブレツェンの歩き方はとても分かりやすい。一番いいのは市電に乗って、好きなところで降りることだ。デブレツェンで市電が1つしかないからぜったいまちがいがない。そして始発・終点は電車の駅である。市電は町の南側から東側まで走り、有名な所で止まる。散歩を楽しみたい場合にはピアツ (Piac) という歩行者天国や大きな公園で歩くと気持ちがよい。大きな公園には周りの自然も豊かでそして静かですばらしい。普通、大学を見るのはそれほど面白いことではないが、デブレツェンは「大学の町」と言われており、大学の建物も必見。市電は町をぐるりと回っているから、迷う心配もない。



